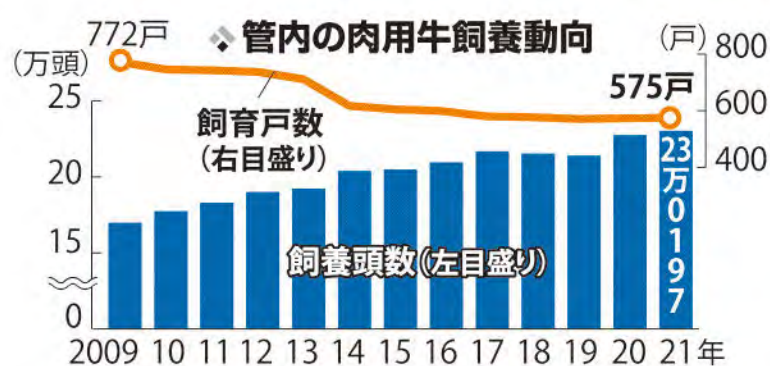




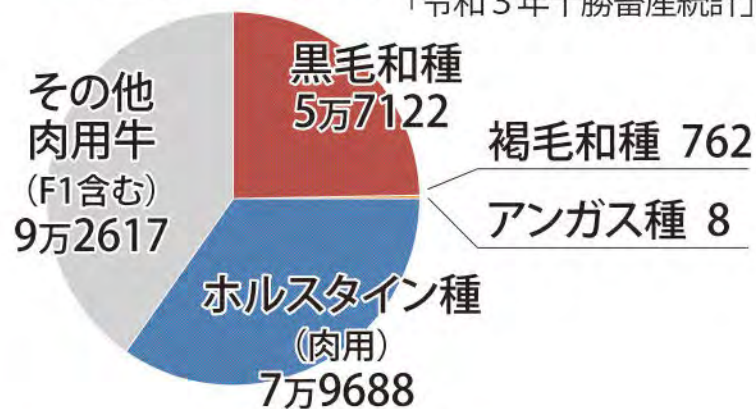
肉用牛

**ブランド産地化進む
全共でも好成績**

地域や団体を上げたブランド化や肥育技術の向上が進む和牛生産（音更町）



◆肉用牛の内訳 ※十勝農協連「令和3年十勝畜産統計」



十勝農協連の2021年12月の調査によると、十勝管内の肉用牛は、昨年12月時点で23万197頭となり、10年前から約5万頭増えた。乳牛の24万5000頭に並ぶ勢いで、酪農が生乳の生産抑制で廃用牛の淘汰を早めていることから差は縮まるとみられる。

管内では「素(もと)牛」と呼ぶ子牛が多い。牧草などの粗飼料に恵まれた環境で育った牛は発育がよく、肥育成績の高い牛に成長することから府県の農家から引き合いが強い。

市場での取引価格も道外に比べて堅調だ。コロナ禍での外食需要の低下で枝肉価格が下がっていたが、価格も取引頭数も昨年からの回復基調にある。黒毛和種の子牛取引状況では、ホクレン十勝地区家畜市場(音更)が取引頭数で全国一になっている。

ただ、酪農と同様に餌の配合飼料の価格高騰は経営を直撃している。

自給飼料が多い乳牛に比べて、肉用牛は輸入原料の飼料に頼る割合が大きい。価格安定の補てん制度があるものの、右肩上がりの中で生産現場の負担は増している。

道内は肉用牛の産出額が鹿児島県に次いで全国2位。その中で十勝は、飼育戸数、頭数ともにトップ。肉用のホルスタイン種が多く、黒毛和種も増加している。黒毛和種の「十勝和牛」、褐毛和種の「いけだ牛」、ホルスタインの「十勝若牛」など、地域や団体でブランド化を進めている。

中でも十勝和牛振興協議会では、育種改良を図って産地づくりに力を入れている。10月に開かれた第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会では、道代表として十勝の19頭が出品された。種牛と肉牛の両方で、鹿児島、宮崎といった九州の伝統県に並んで上位に入る牛もいて、生産者や産地としてレベルが上がっていることを印象付けた。

宮農排水改良ラインナップ技術 新世代機

「カット・シリーズ」

「カットドレーン」&「カットソイラー」&「カットブレーカー」



全層心土破碎機「カットブレーカー」
農地の透水性と通気性を高め、地耐力や保水力を維持

新製品 暗きょパイプ埋設機「カットドレーナー」
2022年7月販売開始予定!!

「ものづくり」で農業を支える

Hokkai KOKI

株式会社 北海コーキ

〒099-1587 北海道北見市豊地22-4
TEL0157-36-6808 FAX0157-36-6809

地域とのつながりを図り、
地域社会から信頼される存在として
環境への配慮や豊かな
社会実現に貢献していきます



除草・集草・梱包業務など
安全・安心の技術力で対応いたします。



灯油・軽油のご用命はぜひ



株式会社 **チセイ**

〒080-0813
北海道帯広市東13条南3丁目1-14
☎0155-28-3378

各種土木工事 産業廃棄物収集運搬業 一般廃棄物収集運搬業 人材派遣業
石油製品販売業 除草業務/河川堤防、道路法面、山林(下草)、公園、休遊地、その他